

業種の垣根を越えたデータ連携システム整備委員会

第二回議事録

業種の垣根を越えたデータ連携システム整備委員会

第2回 議事次第

日時：平成29年3月7日（火） 14：00～16：00

場所：経済産業省本館17階 1-3会議室

1. 開会

(1) 中小企業庁経営支援部長挨拶 高島 竜祐

(2) 委員長挨拶 岡田 浩一

2. 部会活動報告

3. 今後の予定

※以降の議事は、メインテーブルの方のみが対象となります

4. 実証プロジェクトの審査結果報告

5. 閉会

【決定事項・内容】

- ・ 以下のコンソーシアムを採択することを承認頂いた。
 - ① 農林水産業界（鮮魚）における日本とインドネシア間の共通 EDI 連携
 - ② 北海道の中小企業における次世代共通 EDI 連携
 - ③ 大阪発の中小製造業におけるビジネス情報共通 EDI 連携
 - ④ 貿易手続に係る輸出業界の共通 EDI 連携
 - ⑤ 業務品の卸・小売業界における共通 EDI 連携
 - ⑥ 豊田商工会議所における商工会議所モデル共通 EDI 連携
 - ⑦ 碧南商工会議所における中小企業共通 EDI 連携
 - ⑧ 中小サービス業界におけるクラウド型共通 EDI 連携
 - ⑨ 自動車業界における共通 EDI 連携
 - ⑩ 多摩地域活性化のためのビジネス情報共通 EDI 連携
 - ⑪ 水インフラ業界における共通 EDI 連携
 - ⑫ 静岡発エンジニアリングチェーンにおける共通 EDI 連携

【議事内容】

1. 開会

(1) 中小企業庁経営支援部長挨拶 高島 竜祐

本日はお忙しい中、業種の垣根を越えたデータ連携システム第2回整備委員会に出席頂きまして、誠にありがとうございます。

昨年末の第1回整備委員会以降、実証プロジェクトの募集を行いましたところ、20を超えるプロジェクトの申請がございました。その後、審査委員会で厳正に審査を行い、12の実証プロジェクトを選定し、本日の整備委員会で審議頂く事になっております。

今後は、実証プロジェクトの実行段階に入ります。実証プロジェクトの成果を着実にあげ、中小企業の生産性の底上げがされますことを期待しております。

委員の皆様におかれましては、より良い実証プロジェクトとなりますように、忌憚のないご意見を頂きますようによろしくお願い申し上げます。

(2) 委員長挨拶 岡田 浩一

本日はお忙しい中、業種の垣根を越えたデータ連携システム第2回整備委員会に出席頂きまして、誠にありがとうございます。

それぞれの部会の活動報告、ならびに審査委員会による採択案を報告致しますので、本日の第2回整備委員会で審議頂きたいと思っております。

日本の経済がより良くなる為には、中小企業の稼ぐ力を高めていかなければいけないと考えております。そういった意味では、各社の企業努力も重要ですが、業種の垣根を越えて連携し、効率を上げる事が不可欠であると考えております。

本日はご審議の程、よろしくお願い申し上げます。

2. 部会活動報告

※「資料2：第2回業種の垣根を越えたデータ連携システム整備委員会 進行資料」に基づき、岡田委員長より説明。

以下、「2-2. 技術部会・実証プロジェクト部会活動報告」に基づき、菅又部会長より報告。

○菅又技術部会部会長

技術部会の部会長を担当させて頂いております菅又で御座います。技術部会では、実証検証の相互運用の実現に向けて、データの意味情報の共通化と、ネットワークの相互接続の方策を検討しておりました。今回の申請の中には、クラウドを利用する申請が多くありましたので、技術部会から分科した形で通信規格分科会を発足し、クラウドベンダとつなぐ企業やVAN / ASPとの通信に係る規格を検討致します。また、金融連携やIoT連携の技術が進んでいる中で、実証プロジェクトでは、どのような取り組みができるかについても、継続して検討を行って参ります。

以下、「2-2. 技術部会・実証プロジェクト部会活動報告」に基づき、川内部会長より報告。

○川内実証PJ 部会部会長

実証プロジェクト部会の部会長を担当させて頂いております川内で御座います。実証プロジェクト部会では、採択された実証プロジェクトの実証事業遂行に関する統括管理を行うと共に、事業終了後のビジネスデータ連携基盤の自走化と普及についての方策の検討を行って参ります。採択されたコンソーシアムに対して、4月にキックオフを実施したいと思います。

※「資料5：実証プロジェクトの審査結果報告」に基づき、事務局より説明。

実証プロジェクト審査会において、全申請書に対し厳正な申請を行った結果、12のコンソーシアムを採択対象として、選定致しました。

採択された実証プロジェクトは、中小企業から大手企業まで企業規模の垣根なく申請を頂き、自動車、水インフラ、水産、輸出、卸、小売の5つの業界、北海道、東京(多摩)、静岡、愛知、石川、大阪の6つの地域での取組となっております。さらには、決済情報、生産管理情報との連携、物流のトレーサビリティなど受発注と連携する取り組み等があり、バラエティ豊かな実証プロジェクトが採択対象として選定されました。

○岡田委員長

採択対象として選定された実証プロジェクトに対して、委員の皆様からご意見、ご助言を頂ければと考えておりますが、いかがでしょうか？

以下、委員のコメント

○委員 A

補足説明をさせて頂きます。審査では、地域、業界、実証検証のビジネスプロセスのバランスの3つの視点を考慮して議論をして参りました。

今回の申請では、EDIを核に幅広い企業が実証検証を行うことになる為、今回の施策が世の中に広がりを見せるのではないかと期待しております。

○委員 B

多岐に渡る実証プロジェクトとなっていると感じました。他業界の大量データの連携は進んでいない中、花王社をはじめ、大手企業がいくつか採択されているのは良いと感じました。私共もEDIの普及の実現に向けて、4,5年程前から金融連携に取り組んでおりますが、今回、金融連携の実証プロジェクトを採択頂いている為、嬉しく思います。

金融連携を実現する事により、裾野が広がり、日本全国、更には世界に普及することを期待しております。

○委員 C

私は、日本銀行の金融高度化センターに所属しておりますが、金融機能の向上を支援する役割を担っております。金融高度化センターのテーマとして、金融 EDI や商流情報、EDI 情報を活用したファイナンスがございます。採択された実証プロジェクトには、決済情報との連携や、ファイナンスでの活用に向けた取組が見受けられましたので、そういった実証プロジェクトに大変興味を持っております。現在の資料から読み取れない部分については、詳細を知りたいと感じております。

(補足：事務局)

多摩地域活性化情報管理システム開発コンソーシアムは、実際に金融機関を巻き込んだ実証実験ではなく、銀行から情報収集を行う事が主テーマであると聞いております。

○委員 D

「日用品の卸・小売業界における共通 EDI 連携」において、共有企業 DB で既存の取引先のみならず、新規の取引先もマッチングしていく仕組みであると拝見しました。法人番号等を活用して、インターネット上で、信頼できる情報を発信していかれるのだと思います。そのためには、既存、新規を問わず情報の鮮度(いつの情報であるのか)、情報の真正性に関して配慮していくことが重要と思います。

○委員 E

公募で 20 件の申請の中から、12 件を採択されたと思いますが、採択されなかった残りの提案についても気になっております。

実証プロジェクトについては、バランスよく採択されているので、実証検証の結果を楽しみにしております。

(補足：岡田委員長)

今回の審査では、審査基準を設け、書面とヒアリングの 2 段階での審査を行いました。そして、それぞれの審査で順位付けを行い、予算の範囲内で、上位 12 件を採択しました。

また、書面審査で適格性に欠けると判断した 4 件と、申請書で実証検証の内容が明確に記載されている且つ、加点の点数が高かった 4 件の計 8 件については、ヒアリング審査は行っておりません。

(補足：委員 A)

書面審査で適格性に欠けると判断した 4 件については、公募要領に適合していない申請でした。また、今回の審査では自走性や、実証検証後も普及していくことを最重要視しました。

○委員 F

地域性、業界性の面でバランスよく採択されているので、非常に楽しみにしております。システム観点でも、スクラッチとパッケージ(オンプレミス、クラウド)をバランス良く採択されており、私共の対象となる会員のパッケージも 6,7 つ程採択されているように見受けられます。

ITCA 様主催の標準部会で検討を進めて頂いていると思いますが、中小企業が EDI を活用するうえで安全性の担保が判断基準になってくると思いますので、セキュリティ面については検討が必要だと思います。

また、中小企業 EDI 利活用の普及に向けて、中小企業施策を踏まえたインセンティブの検討が合わせて必要だと考えております。

○委員 G

実証検証では国連 CEFACT 標準の共通辞書に準拠したデジタルデータを使用する事になっていると思いますが、審査結果報告資料を確認する限りは、共通化できているように見受けられます。受発注番号の付与方式等で統一性があれば、システムが変わった場合も対応できるのではないかと感じました。

○委員 H

大企業と中小企業間の受発注の実取引で実証検証を行う為、効果が見込めるのではないかと思います。

また、海外展開を行う実証プロジェクトもあり、非常に楽しみにしております。

「貿易手続きに係る輸出業界の受発注 EDI 連携」については、中小企業の取引に留まらず、更なる普及に向けた取組に繋げて欲しいと感じました。

○委員 I

他業種、他地域と繋がることは非常に大変な事だと認識していますので、事務局をはじめ、関係者は非常にご苦労されるかと思います。

一点気になりましたのは、システムの捉え方が様々である為、システム概要図を 1 枚で表現するのは難しいと考えます。最終的に繋がることを目指す一方で、様々なことをルール化する必要性を感じました。

○委員 J

地域の多様性もありながら、グローバルの視点も含まれていると感じました。また、“食”の輸出に係わる実証プロジェクトもある為、非常に魅力を感じました。

「水インフラ業界における共通 EDI 連携」については、多業種との取引が想定される為、特に注目しております。

これまで私共も、情報化に取り組んでまいりました。社会の変化のスピードが速い為、中小企業がメリットを感じられるように、今回の要件を早く実装し、スピード感をもって取り組む事が重要だと考えております。

○委員 K

非常にバランスの良い実証プロジェクトになっていると感じております。委員 J からお話のあった通り、社会の変化のスピードが速い為、実証検証修了後の普及をいち早く進めていくことが重要だと考えております。

私共も、普及に向けた活動を行って参りますので、実証検証結果を楽しみにしております。

○委員 L

今回、十数年振りに中小企業庁が EDI プロジェクトを再始動した事は評価しています。地域の中小企業がメリットを感じるような仕組み作りを検討して頂きたいと考えております。また、私は審査にも関わらせて頂きましたが、実証検証後の自走化が大変重要になってくると感じましたので、日商としても何ができるのかについて、スピード感をもった検討が必要だと感じました。

○委員 M

今回の実証プロジェクトでは、国連 CEFAC の共通辞書を活用されることと思いますが、それぞれのプロジェクトで、追加・変更が発生すると思います。その追加・変更を確実にフィードバックし、共有化することで、更なる発展に繋げていって頂きたいと思います。

○委員 N

審査基準に含まれている自走性は私も重要だと感じております。今後、管理法人が中心となりプロジェクトを推進頂く必要があると思いますので、プロジェクト管理法人が積極的に推進頂ける為の動機付けについて、事務局を中心に検討頂きたいと考えております。

○委員 O

私共、製造業では、現在の取引において、業界毎に異なった形式で契約を行っております。中小企業同士を繋げる際も同じことが想定される為、非生産的となってしまいます。そういったことから、中小事業者としては、一つのものだけ導入しておけば、すべての取引に対応できる仕組みの必要性を強く感じております。

(補足：岡田委員長)

現在の FAX のように、安価に購入でき、且つ、コンセンートを差せば誰とでも繋がるような利便性を目標に、実証検証を通じて取り組んでまいりたいと思います。

○委員 P

全国銀行協会も昨年 12 月に XML 電文へ移行する事を決定し、2018 年中に銀行業界全体の共通プラットフォームの構築プロジェクトがカットオーバーする予定となっております。いよいよ具体化してきていると感じ、楽しみにしております。

商流の電子化、金融業界は決済の電子化が両輪で組み合わさる事で、日本全体の生産性向上を目指したいと考えておりますので、引き続き情報共有させて頂きたいと思っております。

また、2018 年 3 月の実証検終了で終わるのではなく、普及に向けた長期的な取り組みを、金融業界としても期待しており、連携を図っていききたいと思っております。

○Q 委員

XML 新システムの開発については、データ連携プラットフォームとの連携も見据えて、進めていきたいと思っております。また、整備委員会で進捗状況を確認し、連携ができる範囲で連携を図っていくことも検討して参りたいと思っております。

○委員 R

長年従来型の EDI を進めてまいりましたが、幅広い実証検証を行い、データが繋がることで新たな価値が見出されることを期待しております。

また、今回のテーマが、総務省が進めておられる 2020 年に向けた社会全体の ICT 化推進と連動するかと思っておりますので、その点についても注目しております。

○川内実証 PJ 部会部会長

委員の皆様方には貴重なご意見を多数頂きまして、ありがとうございました。これから実証プロジェクトがスタート致しますので、皆様のご意見を反映して参りたいと思っております。

本事業は、中小企業の紙取引を EDI 化することを目的として、公募を開始しましたが、大手企業からも沢山の応募を頂き、本事業は中小企業のみならず、大手企業も含めた社会全体の課題であると再認識致しました。

今回の実証プロジェクトをきっかけに、社会全体の生産性向上を目指したいと思っております。その為に、中小企業が安価に入手し、活用できる仕組みを検討していきたいと考えております。引き続き、皆様方のご支援をよろしくお願い致します。

○岡田委員長

委員の皆様から大変貴重なご意見を頂戴しましたので、それぞれの実証 PJ へフィードバックすると共に、事業全体のマネジメントにも活かし、本事業の成功に結び付けたいと考えております。

本日審議頂きました、12 プロジェクトを採択することによろしいでしょうか？

(全員：承認) それでは、本日審議頂きました 12 のプロジェクトを採択とさせていただきます。

[質疑応答]

なし

[審議]

なし

3. 今後の予定

[質疑応答]

なし

[審議]

なし

4. 実証プロジェクトの審査結果報告

[質疑応答]

なし

[審議]

なし

5. 閉会

○事務局

次回の整備委員会は、5 月中旬を予定しております。

引き続き、皆さま方のご支援、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

本日は第 2 回整備委員会にご参加頂き、誠にありがとうございました。

以上